

製品名: Dlx-5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10030**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	DLX5
別名	DLX5; Homeobox protein DLX-5
遺伝子 ID	1749.0
SwissProt ID	P56178
免疫原	抗血清はヒト DLX5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

背景

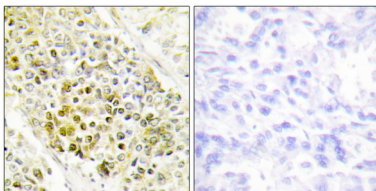
この遺伝子は、ショウジョウバエの distal-less 遺伝子に類似したホメオボックス転写因子遺伝子ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、骨の発達と骨折治癒に関与している可能性があります。7 番染色体長腕上で、ファミリーの

他のメンバーと尾と尾を繋いだ配置で存在するこの遺伝子の変異は、裂手奇形 / 裂足奇形に関連する可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月] 発生段階: 8.5~9日目の胚において、顔面弓間葉系、鰓弓間葉系、耳胞、嗅板周囲の前頭鼻外胚葉で最初に発現し、1日後には発達中の前脳の神経節隆起原基および腹側間脳領域で発現が見られます。12.5日目の胚では、脳と骨、そして最初の軟骨形成後の中期胚の全骨格構造で発現が認められる。15日目の胚では脳と骨格の両方で発現は変化せず、17日目の胚では徐々に減少する。類似性: 遠位型ホメオボックスファミリーに属する。類似性: ホメオボックス DNA 結合ドメインを1つ含む。サブユニット: G22P1 (Ku70) と相互作用する。

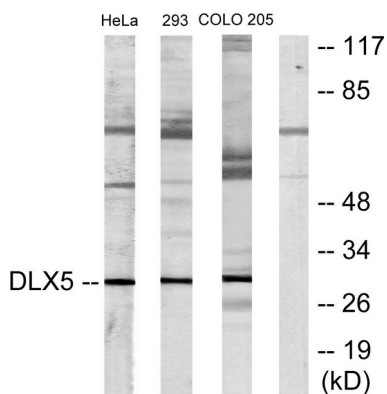
研究分野

-

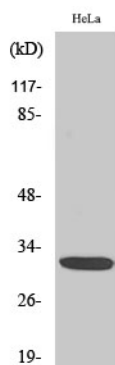
画像データ



DLX5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



DLX5 抗体を用いた HeLa 細胞、293 細胞、および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した Dlx-5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析